

2011年4月3日(日)

### 3月31日夜、岩手県から戻りました

国境なき子どもたち(KnK)スタッフ4名は2台のワゴン車に毛布、高齢者と赤ちゃん用のオムツ、粉ミルクなどを満載して出かけました。援助物資配布のほか、KnKと共に援助活動に携わってもらえる現地の人材を探し、学校や公民館、地域組織を訪ね、これからの活動のためのニーズ調査を実施しました。岩手県陸前高田市および大船渡市にて、学校をはじめ現在避難所とされている主な施設、そして援助物資の配布所、公民館など、大船渡市と宮城県境の長部地区の海岸線にある30あまりの村やセンターを回りました。

4月5日(火)から10日(日)まで、今回訪ねたいいくつかの場所とさらに北方の岩手県庁所在地である盛岡も含め、2度目の訪問をします。その滞在期間に、現地での援助活動のほか、KnKを支援してくれる各団体の役割を検討する計画です。KnKは今後の活動の拠点を岩手県に決めました。いつか福島県でも活動したいと考えていますが、現在の原子力発電所事故での危機的状況下では当面同地での活動は見送らざるを得ないと思われま

### 事態は深刻かつ混乱を極めています

海岸線の町も村も集落も完全に破壊されています。そのうちいくつかの地域はまるで地図上から消し去られたようです。そしてそれは何百キロもの長さにあたっています。建物の残骸や鉄の扉、道路の一部といった「固い」がれきがそこら中にあります。住民は海岸から十分に離れていて、あるいは高さのある、もしくはこの二つの条件が重なった場所に移動しています。そしてその残りの全ては津波に一掃されてしまいました。津波の第1波は沖合で広がって最大13メートルの高さがあったとされ、海岸線にある無数の湾や入り江に流れ込み、場所によっては38メートルの高さになりました。陸前高田市の東、広田半島は一週間のあいだ、陸から切り離された孤島となりました。

木材、泥、家財道具、車やトラック、土台から破壊された家など何千トンものものがれきが、未だ1万7千人以上もの行方不明の人々を隠していることに、心が揺さぶられます。

そして、何千人もの被災者の人々が、全てを失ったこの毎日、生きる喜びを失うかもしれないと少しずつ感じ始めていることに、心が揺さぶられます。

5つの県が大きな被害を受け、突如、何万もの人々が住居を必要としています。道路の再開、食料・水の確保、医療などやらなければならないことが山積しています。どんな犠牲を払ったとしても被災者の皆さんの生活を再構築させなくてはなりません。日本は裕福な国であり、非常に細やかに組織されている国です。そんな中で一人一人が、プライバシーを侵害することなく生きていける居場所を見つけなくてはなりません。

恐らく私たちが直面している状況がお分かりいただけることと思います。この地域外に住み、単なる一NPOでしかない私たちが、複数の市役所や県庁、教育施設、緊急援助団体と協力し、それぞれの「援助をしたい」という思いと、その依頼を調整しなくてはならない状況なのです。

KnKは、これまで多くの自然災害援助を行ってきました。そしてその活動は、パキスタン、バングラデシュやインドネシアで今も継続しています。日本の現状はそれらと非常に異なったものです。災害の大きさや犠牲者の数も違いますが、同時に起きた3つの巨大な災害、そして後々までつづくその影響も計り知れま

せん。

地震は国内では恐らく最大、世界でも何千年と見られたことのないであろうマグニチュード9というものであり、津波は2004年のスマトラ沖の津波より被害者は少ないにせよ、破壊力は疑いなく大きいものであり、それにつづく原子力発電所の事故は、まだ明日のことも数年後のことも影響力を知ることすら出来ません(今のところ、避難者数は14万人ですが…)。このような深刻な状況の中、KnKとそのパートナーである各団体は、そこで自分たちの居場所、役割、そして果たすべき義務をみつめていかなくてはなりません。

### 人員と数値

自衛隊は約10万人の隊員を配置し、予備自衛官・即応予備自衛官を招集しました。日本赤十字社には既に先週末には900億円の寄付が集まりました(3月末現在)。緊急援助団体であるジャパン・プラットフォームは、集まった寄付金約38億円(3月末現在)を現地にいる活動団体(ピースウィンズ・ジャパン、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、そしてKnKを含む20ほどのNPO)などを通じて被災地援助に活用するとしています。

教育委員会は昨日、NPOが教材の配布に関与することを可能としました。被災地では現地の全てのボランティアと仕事をするのが不可欠です。現時点では複数の団体、企業、個人の方々がKnKを援助しています。

現在、東日本大震災でのKnKの援助活動をご支援くださっている国内外の民間組織や企業：

- Secours Populaire Français (仏 NGO。以下 SPF)
- 寺田倉庫株式会社
- 全日本空輸株式会社
- 生活協同組合パルシステム東京
- サンゴバン株式会社
- Compagnie Financière Richemont SA
- Fondation Accor
- 認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム
- NPO 法人チャリティ・プラットフォーム
- DATV チャリティ企画“ほほえみプロジェクト”
- “ほほえみプロジェクト”の主旨にご賛同くださったアジアのスターたち

自主的な支援活動も始まっています。シャンゼリゼのロンボワン劇場では、アーティストが自主的に参加し、他団体との協力により4月11日にチャリティーコンサートが行われる予定です。

### KnKの援助計画——いくつかの流れと原則

この援助活動は数ヶ月、もしくは数年継続するものと思います。

支援者の皆さま、ボランティア、私たちが日頃かかわっている途上国の子どもたち、日本やヨーロッパの企業、さらに事務所のある下落合地域の皆さま——こんなにたくさんの方々が関わってくださっています。また、この活動は地方レベル(救助隊、地域社会、村、学校関係)県レベル(県庁、教育および社会機関)国レベル(官邸の緊急対策室、文部科学省、ジャパン・プラットフォーム)の関係者の了承と調整のもとに行われます。

## 【第1フェーズ】(3/19～4/12)

### 援助物資の配布

地域： 北茨城市(茨城県) 陸前高田市、大船渡市など岩手県の南東部

援助物資： 毛布、オムツ、粉ミルクなどまず最初にほしい品物

パートナー： 支援者の皆さま、SPF、在東京フランス人会、企業、寄贈をしてくださった近隣の方々

ワゴン車は3台から5台に増え、国境なき子どもたちの事務所からおよそ2.5トンの物資を運ぶことができます。

### 援助物資のニーズ調査、被災地域訪問、各地域で運営を担える人員の選出

3月末から4月初めの岩手県への訪問で、KnKは50近い町村の団体、避難所支援物資配布所の主だった所へ行き、教育関連と生活関連の村町県の責任者と話し合いました<sup>1</sup>。

KnKは国に了承されている範囲で行動をとるようにしています。

KnKが扱う援助物資は、今日の予定では以下ようになります。

- 通学手段の準備(購入または長期借入)陸前高田市では15余りの学校のうち3校は完全に破壊されました。周辺の他の学校は目前の新学期に向け、崩壊した学校の生徒たちを受け入れることとなります。陸前高田市と大船渡市までの通学に10台程度の通学バスもしくはミニバスが必要と見込まれます。
- 破損した学校関係の建物の修復
- 岩手県の学校に必要な学用品(紙類、本、通学かばん、制服など)の配布

### 現地の方々による自主的な活動を応援します

この震災以降、援助活動や行方不明者捜索などに自主的に活動している複数の地元のグループを確認しています。KnKは、地元の若者が津波の直後に作った小さな援助グループを支えています。4月中旬までに車両2台の貸与、運転資金・要望のあった物資・ささやかな謝礼と報酬などの準備を整えています。6月末まで、あるいはもし必要ならさらなる延長も視野に入れていきます。

### パートナー

現地調査／物資配布 : ジャパン・プラットフォーム(3/25～4/12)

## 【第2フェーズ】

### 特別支援物資の援助 (4/15～6月末)

通学バス、体育館など学校設備の修復など特別必需品手配にご協力くださるパートナーは、以下のとおりです。

サンゴバン株式会社

SPF

KnKをご支援くださる皆さま

また、特別需要品、ランドセルなどの学用品配布(県の一括の学用品配布を含め)は個人の皆さまに

<sup>1</sup>行方不明の子ども、親を失った子ども、すべて失った子どもなどの正確な数字は、明らかになっていません。今わかるのは惨事の起こる前に各学校に登録されている子どもたちの数だけです。

よるご寄付、SPF、ジャパン・プラットフォームの資金援助により実施する計画です。

### 10～20ヶ所の活動地域の選定(3/26～6月末)

岩手への前回訪問時より、地域組織、公民館など、長期にわたってパートナーシップや協力関係を結べるグループを探しました。調査の結果、KnK は現在のところ以下のような援助に焦点を当てていくことを計画しています。

- ・子どもや若者のための学校施設修復や建設
- ・困難な状況にある子どもたちや若者の学資面や生活面の援助
- ・地域活動と主に行う子どもたちへの心理面のサポート
- ・学校が長い休みの間の子どもたちのサポート

### パートナー

- 修復と建設： 各企業、ジャパン・プラットフォーム  
心理面のサポート： ジャパン・プラットフォーム、地元市民グループなど  
学資面や生活面の援助： 奨学金  
休日対策： 個人の皆さまからのご寄付、SPF

これらの仕事は2011年6月から2012年3月まで続くものと考えており、延長も視野に入れていきます。

## ボランティアの組織化

KnKの多くの支援者や仲間たちが個人個人で何らかの形で援助活動に参加したいと望んでいます。現地を訪ねる、元気を送る、資金集め、等々です。4月4日からそれらのお申し出、ボランティア活動の可能性を精査し、被災地の力になりたいという方々それぞれに合った活動の場を準備したいと思います。ご自分が果たせる役割、能力などをお考えください。搬送、運転、配布、励まし、子どもたちを笑顔にすることに関われるボランティアを必要としています。

## 「メッセージを送ろう」そして「友情のライブラリー」企画

悲劇の起きた翌日の数十通に始まり、今では千以上の応援メッセージがネット上でご覧いただけます。日ごろ KnK が支援しているアジアの途上国の子どもたちや若者たちも、日本に応援メッセージを送ってくれています。日本の教育プロジェクトに関わった子どもたちも書いてくれています。その友だちも親戚も。これらのメッセージを大きなポスターにして、避難所の壁に貼ってきました。KnK のこれまでの友情のレポーターが今は50人近くにもなっていますが、「それぞれが大切にしてきた本にメッセージを添えて届けよう」という「友情のライブラリー」企画を打ち出しました。集まった本は被災地の子どもたちに届けられます。

現在、そしてこの2回目の岩手訪問から帰るまで、事務所体制は、支援のために多くのボランティアが来てくれるとはいえ、変わらずに動きます。東京事務局では二人しか通常の途上国援助活動に専従できないので、アジアの各地ではそれぞれいくらか自立して動いてくれます。4月半ばから東日本震災援助チームは6ヶ所の活動拠点を海岸線の近くに作る計画です<sup>2</sup>。これらの中の一つを東京事務局との連絡基地とし、

<sup>2</sup>陸前高田市内では被災レベルが高いため、被災レベルの低い大船渡市の後方の町、またさらに北部などで拠点を設ける予定



東京では臨時の時間単位で来て下さる方3名と常勤者1名が現地の運営に当たる予定です。また、ボランティアで構成される小さいグループがボランティアの取りまとめを行うことを計画しています。

### 予算、会計などについて

特別会計補佐の担当者が5月はじめから任につく予定です。東日本大震災関連のすべての活動資金は別会計として取り扱います。ジャパン・プラットフォームは助成している各プロジェクトの個別の監査を求めており、被災地援助に関するすべての監査は、各税務申告年度の最後に行います。各パートナー団体はご希望により、それぞれの資金援助に関わる会計報告を受け取ることができます。いただいた寄付の結果を4月末からインターネット上に載せ、2週間ごとに更新してゆくことを計画しています。各パートナー団体との契約は、支援額と期間により、その責任範囲となすべきことと鑑みてそれぞれ取り交わされます。2011年3月19日から6月末までの第1次予算はKnK理事会により承認されており、4月13日から17日の間にジャパン・プラットフォームに提示される予定です。

### 広報について

各パートナー組織にはKnKロゴや使用、文書の転載や転用、写真使用など広報に関して、別途ご案内させていただきます。インターネット上のすべての写真や皆さまのお手元に届いた写真は国境なき子どもたちに関する事柄での使用については、「©国境なき子どもたち」もしくは「©KnK」と著作権を書き記すことでお使いいただけるよう検討しております(広報担当までご相談ください)。

3月11日の震災以来、たくさんの方々が私たちにあたたかいご支援とご協力を表明してくださっていますことに、深く感謝申し上げます。私たちが今被災地に赴き、活動できるのも、最初の<sup>いしずえ</sup>礎を築いてくださったたくさんの方々のおかげです。大震災の前も後も、そしてつづいて起きた原発事故の後も、私たち皆は、この国、この地域、すべての日本人、日本在住者、あるいは遠くに住んでいる人々のために存在しているのです。

フィリピンの貧しい子どもたちは「数百ペソ(1ペソ=2円)でも役に立つの？」と聞いてきました。私は「はい！」と答えました。昨日大きな会社の社長が「1億円を支援したら使えるか」と聞いてきました。私は同じように「はい！」と答えました。大切なのはそこにいること、信念に忠実でありつづけること、連帯して友好的でかつ無私でいること、この3つなのです。

皆さまのご支援を支えに、東北のいくつかの小さな港町への使命を帯びた長い旅に出発します。

ありがとうございます。

認定 NPO 法人国境なき子どもたち  
事務局長 ドミニク レギューエ

追伸:ワゴン車を3台購入しました。さらに2台購入予定です。車にはKnKのロゴのほかに、1台目と4台目にDATVチャリティ企画“ほほえみプロジェクト”のロゴを入れます。2台目と5台目はSPF(仏国NGO)のロゴ、3台目には陸前高田市の私たちがサポートする小さな団体のロゴが入ります。